

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																					
エス・ワン動物専門学校		平成16年7月5日	武田美千子		〒060-0001 札幌市中央区北1条西19丁目2番地7 (電話)011-623-1121																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																					
学校法人高橋学園		平成16年7月5日	高橋淑子		〒064-0810 札幌市中央区南10条西20丁目1番38号 (電話)011-623-1121																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
商業実務	専門課程	ペットライフ学科		平成6年文部科学省 告示第84号	—																					
学科の目的 ペットの総合的な基礎知識とともに、家庭犬のしつけ及び動物介在活動に関する専門的な教育を行い、ドッグトレーナー及び動物介在福祉士として活躍できる技術者、またペットショップで必要とされる人材を養成する。																										
認定年月日 平成16年7月5日																										
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	88単位	25単位	3単位	60単位	0単位	0単位																				
生徒総定員																										
80人		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
		33人	0人	1人	18人	19人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、出席率、授業態度等で5段階評価																					
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:7月25日～8月15日 ■冬季:12月23日～1月19日 ■学年末:3月15日～3月31日			卒業・進級条件	各学科の全科目を履修すること																					
学修支援等	■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 無断欠席や欠席が多い学生に対して担当から電話連絡を行い、登校を促している。欠席が続く場合保護者に連絡し相談する。			課外活動	■課外活動の種類 ・動物愛護週間行事への参加・学校祭実行委員会・体育大会実行委員会 ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ペットショップ、ペットサロン など ■就職指導内容 求人情報に基づき学生と個人面談を行い、早い時期から就職を意識した体験実習に参加を促している ■卒業者数 13 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職 12 人 ■就職率 : 92.3 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92.3 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジュニアリマールライセンス</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>TCM Meridian massage</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>セラドッグ ジュニアハンドラー</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ジュニアリマールライセンス	③	13人	13人	愛玩動物飼養管理士	③	13人	13人	TCM Meridian massage	③	13人	13人	セラドッグ ジュニアハンドラー	③	13人	13人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
ジュニアリマールライセンス	③	13人	13人																							
愛玩動物飼養管理士	③	13人	13人																							
TCM Meridian massage	③	13人	13人																							
セラドッグ ジュニアハンドラー	③	13人	13人																							
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成28年4月1日時点において、在学者27名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者27名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学費等の分割納入制度																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	http://www.s-1gs.co.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																											
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 企業、業界団体等との連携によりペット関連業界の動向を踏まえ、企業等の派遣講師による特別講義や企業等で実習を行い、ペットの美容に関する最新の知識・技術の習得を図る。																											
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 委員会の意見を次年度カリキュラムや実習内容に反映させ、より実践的な教育を目指す																											
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年4月1日現在																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名 前</th> <th>所 属</th> <th>任 期</th> <th>種 別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武田 美千子</td> <td>エス・ワン動物専門学校 学校長</td> <td>平成29年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>近藤 厚</td> <td>高橋動物病院 院長</td> <td>平成29年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>山下 昭男</td> <td>株式会社エヌスクリーン 代表取締役</td> <td>平成29年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>名取 裕憲</td> <td>ドッグケアサポート 代表</td> <td>平成29年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>平木 守洋</td> <td>北海道オールペット組合 相談役</td> <td>平成29年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>①</td> </tr> </tbody> </table>				名 前	所 属	任 期	種 別	武田 美千子	エス・ワン動物専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②	近藤 厚	高橋動物病院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③	山下 昭男	株式会社エヌスクリーン 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③	名取 裕憲	ドッグケアサポート 代表	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③	平木 守洋	北海道オールペット組合 相談役	平成29年4月1日～平成30年3月31日	①
名 前	所 属	任 期	種 別																								
武田 美千子	エス・ワン動物専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②																								
近藤 厚	高橋動物病院 院長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③																								
山下 昭男	株式会社エヌスクリーン 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③																								
名取 裕憲	ドッグケアサポート 代表	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③																								
平木 守洋	北海道オールペット組合 相談役	平成29年4月1日～平成30年3月31日	①																								
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																											
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (開催日時) 第1回 平成29年10月25日 15:00～17:00 第2回 平成30年2月15日 15:00～17:00																											
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 ・就職内定者ほ3月卒業後に早めに就職先に勤務させた方が良いと思われる。																											
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係																											
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業、業界団体等との連携によりペット関連業界の動向を踏まえ、企業等の派遣講師による特別講義や企業等で実習を行い、犬のしつけやセラピードッグの育成に関する知識・技術の習得、福祉現場での対応力などを身につける。																											
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ・カリキュラムに基づく実習の実施。・企業側の担当者から実習に対する評価を学生にフィードバックを行う																											
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科 目 名</th> <th>科 目 概 要</th> <th>連 携 企 業 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物飼養管理学Ⅰ</td> <td>愛玩動物の適正飼養について実践的に学ぶ</td> <td>ドッグケアサポート 他</td> </tr> <tr> <td>家庭犬適性飼養学Ⅰ</td> <td>家庭犬のしつけの基本を学ぶ</td> <td>ドッグストリート</td> </tr> <tr> <td>家庭犬適性飼養実習Ⅰ</td> <td>犬の触り方、リードの持ち方など実践の基本動作を習得する</td> <td>ドッグケアサポート</td> </tr> <tr> <td>セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅰ</td> <td>セラピードッグ育成の基本技術を習得する</td> <td>国際セラピードッグ協会 他</td> </tr> <tr> <td>動物介在療法現場実習</td> <td>福祉現場での動物介在療法のプログラムを学ぶ</td> <td>深人会 他</td> </tr> </tbody> </table>				科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	動物飼養管理学Ⅰ	愛玩動物の適正飼養について実践的に学ぶ	ドッグケアサポート 他	家庭犬適性飼養学Ⅰ	家庭犬のしつけの基本を学ぶ	ドッグストリート	家庭犬適性飼養実習Ⅰ	犬の触り方、リードの持ち方など実践の基本動作を習得する	ドッグケアサポート	セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅰ	セラピードッグ育成の基本技術を習得する	国際セラピードッグ協会 他	動物介在療法現場実習	福祉現場での動物介在療法のプログラムを学ぶ	深人会 他						
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等																									
動物飼養管理学Ⅰ	愛玩動物の適正飼養について実践的に学ぶ	ドッグケアサポート 他																									
家庭犬適性飼養学Ⅰ	家庭犬のしつけの基本を学ぶ	ドッグストリート																									
家庭犬適性飼養実習Ⅰ	犬の触り方、リードの持ち方など実践の基本動作を習得する	ドッグケアサポート																									
セラピー犬ハンドラー育成実習Ⅰ	セラピードッグ育成の基本技術を習得する	国際セラピードッグ協会 他																									
動物介在療法現場実習	福祉現場での動物介在療法のプログラムを学ぶ	深人会 他																									

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																									
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教員の実務に関する知識、技術及び技能並びに授業及び生徒に対する指導力の修得・向上を目的として、教員の業務経験や能力に応じて研修等の受講を行う。																									
(2) 研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 ・特別講師によるセラピードッグ育成技術講習 ②指導力の修得・向上のための研修等 ・文部科学大臣認定職業実践専門課程に係る研修会の受講																									
(3) 研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 ・平成29年5月栄養学セミナー(生体におけるプラセンタのメリット) ・平成29年11月ペットマッサージセミナー(ペットのリフレクソロジー) ・平成29年2月セラピードッグセミナー(国際セラピードッグ協会) ②指導力の修得・向上のための研修等 ・第2回文部科学大臣認定職業実践専門課程に係る研修会の受講(受講済み)																									
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1) 学校関係者評価の基本方針 ・教育活動等の改善のために主体的に取り組む ・学校関係者評価を広め、共通理解を図る																									
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか 学校における職業教育の特色は何か 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに適合しているか </td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか また、有効に機能しているか 各種規程等は整備されているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか 情報システム化等による業務の効率化が図られているか </td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 学科の修業年限に対応した学習時間の確保は明確にされているか 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか 職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得等に関する指導体制はあるか 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか </td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 就職率の向上が図られているか 資格取得率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか </td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する体制は整備されているか 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 学生の生活環境への支援は行われているか 卒業生への支援体制はあるか </td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 学外の実習等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか </td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高等学校に対する情報提供等の取組が行われているか 学生募集活動は、適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 生徒募集の効果と実績の検証が行われているか </td> </tr> <tr> <td>(8) 財務</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 財務について会計監査が適正に行われているか 財務情報公開の体制準備はできているか </td> </tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか </td> </tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか </td> </tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか 学校における職業教育の特色は何か 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに適合しているか 	(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか また、有効に機能しているか 各種規程等は整備されているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか 情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 学科の修業年限に対応した学習時間の確保は明確にされているか 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか 職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得等に関する指導体制はあるか 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか 	(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率の向上が図られているか 資格取得率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか 	(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する体制は整備されているか 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 学生の生活環境への支援は行われているか 卒業生への支援体制はあるか 	(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 学外の実習等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか 	(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校に対する情報提供等の取組が行われているか 学生募集活動は、適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 生徒募集の効果と実績の検証が行われているか 	(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 財務について会計監査が適正に行われているか 財務情報公開の体制準備はできているか 	(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか 	(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか 	(11) 国際交流	なし
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか 学校における職業教育の特色は何か 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに適合しているか 																								
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか また、有効に機能しているか 各種規程等は整備されているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか 情報システム化等による業務の効率化が図られているか 																								
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 学科の修業年限に対応した学習時間の確保は明確にされているか 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実習等)が体系的に位置づけられているか 職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得等に関する指導体制はあるか 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか 																								
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率の向上が図られているか 資格取得率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか 																								
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する体制は整備されているか 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 学生の生活環境への支援は行われているか 卒業生への支援体制はあるか 																								
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 機器・備品は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 学外の実習等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか 																								
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校に対する情報提供等の取組が行われているか 学生募集活動は、適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 生徒募集の効果と実績の検証が行われているか 																								
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 財務について会計監査が適正に行われているか 財務情報公開の体制準備はできているか 																								
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか 																								
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか 																								
(11) 国際交流	なし																								
※(10)及び(11)については任意記載。																									
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 次年度の教育活動その他の学校運営の改善等に活用することを組織として決定する。 ・企業等から参画された委員の意見を反映して、次年度のカリキュラムの作成・見直し等を行う																									

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
山下 昭男	(株)エヌエスグリーン 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日	企業
木嶋 俊雄	第一ペット商事㈱	平成29年4月1日～平成30年3月31日	企業
山橋 薫	卒業生	平成29年4月1日～平成30年3月31日	卒業生
中島 益美	地域住民	平成29年4月1日～平成30年3月31日	地域住民
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等			
(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ ・ 毎年6月頃) URL: http://www.s-1gs.co.jp			
5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			
(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 本校の教育目標や教育活動の計画、実績等について必要な情報を提供して十分な説明を行い、企業等の関係者に本校の教育課程全般について理解を深めることにより、当該企業等の関係者との連携及び協力の推進を図る			
(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの項目		学校が設定する項目	
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史、特色 ・学校の教育目標、経営方針 		
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の定員数、在学生数 ・カリキュラム、取得可能な資格 ・資格取得の実績 ・卒業生数、卒業後の進路 		
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数 ・教職員の担当学科、担当科目 		
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取組状況 ・就職支援等への取組状況 		
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況 ・企業等や他の学校との連携による取組状況 		
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援への取組状況 		
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い(金額・納入時期・納入方法等) 		
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書、収支計算書等 		
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果に対する改善方策 		
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・なし 		
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・なし 		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 情報提供方法 URL: http://www.s-1gs.co.jp			

授業科目等の概要

(商業実務分野専門課程 ペットライフ学科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物形態機能学 I	動物の基本的な構造と働きを理解する	1年前期	30	1	○			○		○		
○			グルーミング学 (動物健康管理学)	グルーミングの目的、必要性を理解し、グルーミング実習につなげる	1年前期	30	1	○			○		○		
○			動物行動学 I (大学)	基本的な犬の動作から脚足歩行まで、しつけ教室の基本を学ぶ	1年前期	30	1	○			○		○		
○			動物栄養学	動物に必要な栄養について基本を学ぶ	1年前期	30	1	○			○		○		
○			動物飼養管理学 I	愛玩動物の適性飼養について学び、愛玩動物飼養管理士2級の資格取得を目指す	1年全期	30	1	○			○		○	○	
○			公衆衛生学	動物に発生する感染症や、人獣共通感染症の病原体、感染源、伝播様式、臨床症状、予防等について学ぶ	1年前期	30	1	○			○		○		
○			動物人間関係学(AAA・AAT概論)	人と動物の絆(HAB)の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し人と動物の共生に寄与する	1年前期	30	1	○			○		○		
○			ビジネスマナー学 I	基本的なマナーを知り、それを身に付けることを通して、より豊かな教養ある人物を目指す	1年前期	30	1	○		△	○		○	○	
○			総合学習	学内での各種行事に参加し、コミュニケーション能力を身につける	1年全期	52	1	○			○		○		
○			企業実践講座	広く様々なペットフード・ペット用品メーカーから製品の特徴やセールスポイントについて学ぶ	2年後期	14	0.5	○			○		○	○	
○			動物繁殖学	さまざまな生物の繁殖の概要と、具体的な繁殖の手法について犬・猫を中心に学ぶ	2年後期	16	0.5	○			○		○		
○			動物行動学 II (猫学)	猫への知識、グルーミングの技術について学ぶ	2年後期	30	1	△		○	○		○	○	
○			動物飼養管理学 II	愛玩動物に関する専門的知識を高めるとともに、動物愛護や人と動物の共生について学び、1級の資格取得を目指す	2年全期	30	1	○			○		○		
○			手話学	視覚障害者とのコミュニケーション手段の手話の技術を修得すること及び聴覚障害者福祉の理解の促進を図る	2年前期	20	2	○	△		○		○		
○			ビジネスマナー学 II	身に付けたマナーを日常生活や社会生活の中で活かし、社会に出て求められる人材となることを目指す	2年全期	30	1	○	△		○		○	○	
○			ペットマッサージ	近年における、ペットの高齢化や生活環境などを理解し、ホリスティック医療の知識を深めると共に、ペットマッサージの手技を修得する	2年前期	20	1	○		○	○		○		
○			総合学習 II	学内での各種行事に参画することにより、応用力や社会性を高める	2年全期	36	1	○			○		○		
○			家庭犬適性飼養学 I	犬とはどのような生き物かについて基本を学ぶ。家庭犬のしつけについての基本を学習する。	2年全期	60	2	○			○		○	○	
○			家庭犬適性飼養実習 I	家庭犬のしつけにあたり、犬の触り方、首輪の付け方、リードの持ち方などの基本事項を学ぶ。基本動作の方法を学び、実践する中で基本的技術を修得する。	2年全期	120	3	○		○	○		○	○	
○			セラピー犬ハンドラー育成実習 I	セラピー犬ハンドラー育成に向けてハンドラーとしての基本的動作を学ぶ	1年全期	240	6	○		○	○		○	○	
○			動物介在療法学 I	アニマルセラピーの標準的な理解を目的に授業を進める	1年後期	30	1	○			○		○		
○			動物看護学	動物の症状や疾病にあわせた看護を学ぶ	1年後期	30	1	○			○		○		
○			介護職員初任者研修	動物介在にたずさわる上で必要とされる介護の基本的知識や技術を学ぶ	1年後期	122	4	△		○	○		○	○	
○			ペットシッター・ポップアート学	・ペットシッターに必要な知識、技術を学ぶ。・商品の説明や価格の書き方を学ぶ	1年後期	30	1	○			○		○	○	
○			グルーミング基礎実習	グルーミング作業、犬の扱い方、器具の扱い方の基本を身に付ける	1年全期	480	12	○			○		○		
○			学外研修	学校外で行われる各種行事を見学、参加してペット業界への理解を深める	1年全期	44	1		○			○	○		
○			家庭犬適性飼養学 II	主な飼養相談と解決方法を学び、飼い主にどのように伝えるかを学ぶ。また、子犬のしつけ教室を実施するための計画、準備を進める。	2年全期	60	2	○			○		○		
○			家庭犬適性飼養実習 II	子犬のしつけ教室に向けて基本動作を再確認する。飼い主に伝えることの難しさを感じ、改善事項を検討する。	2年全期	120	3			○	○		○		
○			セラピー犬ハンドラー育成実習 II	セラピー犬ハンドラー育成に向けてハンドラーとしての応用動作を学び、認定ジュニアハンドラー取得を目指す	2年全期	240	6	○		○	○		○	○	
○			英国式ペットカウンセリング	犬と適切なコミュニケーションをする為に行動学上欠かせない知識を習得する。それをイギリスではどのように行われているかを紹介しながらグローバルな観点	2年後期	20	1	○			○		○		
○			動物介在療法学 II	具体的な動物介在療法のプログラムを計画、実践、評価、まとめをしていく	2年全期	60	2	○			○		○		
○			動物介在療法現場実習	実際の現場での動物介在療法のプログラムを計画、実践、評価、まとめをしていく	2年全期	120	3				○		○	○	
○			セラピー犬グルーミング実習	セラピー犬に対するグルーミングの基礎を学び、技術を修得する。	2年全期	120	3			○	○		○		
○			グルーミング応用実習	時間配分を考え、グルーミング犬種の全身カットがひとりで出来る技術を身に付ける	2年全期	480	12			○	○		○		
○			学外現場実習	関連企業への現場実習。課題に対する達成状況を日誌並びに評価表を通して学校へフィードバックし、教育へつなげる	2年前期	160	4			○	○		○		
○			学外研修 II	学校外で行われる各種行事に参加し、ビジネスマナーの対応力を高める	2年全期	76	2		○			○	○		

○		ペットフード・ポップアート実習	犬に必要な栄養素や栄養、バランスを学び、お客様に的確にアドバイスが出来る知識を身に付けると共に調理の実践力を磨く。	2年 全期	60	2	△		○	○		○	
合計			37科目	3160単位時間(88単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・卒業要件	全単位取得	1学年の学期区分	前・後 期
・履修方法	各授業時数の2 / 3以上出席	1学期の授業期間	20週